

新連載①



初めまして、新海和夫です。

初めまして、私は新海和夫（昭和27年7月7日生、44歳）と申します。

雪印グループの農業技術者として17年間勤めたサラリーマン人生から一転、農業Uターン一年生となりました。

農業を営むのは、まずは一年生であります。謙虚に素直に一から親父から教えていただき新たな農業に挑戦いたしました。

私が、地域のむらおこしと農業をと決意したのは30年前（旧布鎌村時代）の中学2年生の時でした。地元のある女学生に、「新海君が地域のむらおこしをしなくてだれがやるの！」と説教されたことでした。まず日本全国の、そして世界各

国の農業とむらおこしを学び、仲間のネットワークを作り、必ずこの生まれ育つた布鎌村に戻り、地域農業の為に根を張ることと自分自身に誓いました。

高校は、どこを受験しても良いと言わされました。私は千葉県で一番優秀で伝統ある茂原農業高等学校へ入学しました。

日本でも4本指に入るといわれる名門校でした。遠隔地の為、寮生活を通じ同じ釜の飯を食いながら、ます千葉県農業を学び、ネットワークを作りました。

卒業後、即農業を継ぐつもりでしたが、親父が若く、理解があつた為に、現在に至ってしまいました。父の病気を機会に1996年9月30日に決意いたしました。農業Uターン日記の始まりです。

下総の国、旧布鎌村から

丘にあが

ると畑作地

帯、日本一

私の好きな「北の国から」という北海道のど真ん中・富良野からの農村を舞台にしたドラマがありましたが、それにちなんで日本のど真ん中に位置する、私の

生まれ育った下総の国、旧布鎌村を紹介いたします。

私の住む栄町（旧布鎌村）は、東京都心より約50km圏内、北東部に位置し、利根川に隣接し印旛沼、手賀沼に囲まれた

日本でも有数の水郷地帶です。20km圏内

下総乃国旧布鎌村から

新海和夫
元雪印種苗(株)園芸推進室室長
宮崎研究農場長



1952年千葉県生まれ。新海農園後継者1年生。元雪印種苗(株)宮崎試験農場長、園芸推進室長。二科会写真部所属、第77・78回連続入選。栄町観光協会理事・審査員。都城市ウェルネス特派大使。SDTA千葉教会理事。日本サクラの会・栄支部理事。家庭園芸士、樹医。千葉県印旛郡栄町四ツ谷146
☎0476(95)2801

江戸・東京の台所として、私の旧布鎌村は誕生し現在に至っているのであります。

温14・2度、年間降水量1,460mmは日本の中でも平均的で（表1参照）、非常に安定し恵まれた気候条件と立地条件をもち合せた地域であります。

徳川・江戸時代にさかのばると、おと

なりの佐倉市は佐倉藩の中心で、下総の国全体は徳川の御領地として大切にされ

ていました。

江戸・東京の台所として、私の旧布鎌村は誕生し現在に至っているのであります。

表1.全国各地との比較

（牧草コンクール基準）

項目	年平均気温	年間降水量	10ha当たり年間牧草収量
下総の国(千葉県) 旧布鎌村	14.2°C	1,460mm	14.2t
宮崎県 都城市	16.4°C	2,460mm	16.4t
北海道 札幌市	8.2°C	820mm	8.2t

年平均気



図1・千葉県全図

す。

【農業の原点・行商（カツギ屋）】

昭和20年～40年代は、行商（カツギ屋）が多くJR成田線沿線には約一万人もの行商がいたと言われています。農家のほとんどが、東京都内に行商していたのです。別の機会にその当時の様子と現代の行商の様変わりと将来のあり方など、私なりに研究しまどめてみたいと思っていきます（当時は、NHKでカラス部隊として取り上げられていた。私の先生はそれを絵に書いての日展入選である・・・）。

私の家は、先祖を新海神社として、長野県川上地方に残し武田家の滅亡と共に相馬地方にぬけ、現在の布鎌地区を開拓し移り住み、代々農家として私で7代目（270年）、行商は3代目で約100年の歴史があります。

親父の生きざま（行商IIカツギ屋・農業経営者15号参照）、後ろ姿を見て学ぶものが多かったと思います。

小さいころは、行商なんて嫌だ、と超近代化の大規模経営を夢みていました。それがいつしか、農業経営は規模の大小ではない、思うようになりました。「小さくとも中身が大切」と、いつも親父は言つていました。

旬の物を中心に野菜を作れば、施設・資材・コストがほとんどかからないからおいしい野菜を安く提供できます。そして規格外は、漬物などにして加工すればなお喜ばれ、利益ともなります。自分

で作り、自分で値段を決め、自分で売り、喜ばれる。これこそ豊かな農業経営でないでしょうか。

だから我家の経営は、健全経営。代々、借金は一銭も無し。ローン・借り入れが嫌いなのです。

「金は天下のまわりもの、そのかわり宵越しの錢はもたない」と親父は言います。

まさに、作家内村鑑三氏が「人類の最大の遺産」の中で言っていた「金を残すのは下、物を残すのは中、人を残すのは上」であります。

親父はいつも言います。「金・物を残すと争いのもどとなり家系は滅ぶ」と。しかし、人を子をきちっと教育するのは末代への宝である」と。

昨年暮れ、私の就農記念として、新しいコンバインとプラウをそろえるのにと現金500万円を用意してくれていました。何か胸が熱くなりました。経営は小さくとも我が家は心が裕福なのです。

この日記を通して、小さくても健全経営で頑張っている仲間にもスポットを見てみたい、と思っています。

【全国農民ネットワーク作りが夢】

が生き生きと野菜作りに取り組む所沢の熱き仲間たち。

九州へ飛ぶと霧島連山のふもと都城盆地で有機梅作り、らっきょう作りに取り組む仲間。

航海士から5万頭養豚地域複合経営にチャレンジする南州牧場の本多代表。

J Aの課長でありながら自ら手本を示す福岡県の安武さん、ニューチャレンジ

ールを送りたい。この誌面を通して、ネットワークを組織しながら地域に根をおろしたユニークな仲間たちも紹介したいと思います。ちょっと予告紹介すると、北海道農業にかかんに取り組む友人たち。十勝平野大樹町で100haの大根作りに挑戦の大石農園の代表。

酪農王国に根をおろし自らの手で加工し友人たちと有名都内デパートで人気のノースプレインファームの若き大黒さん。

東京近郊では千葉の多くの仲間たち、経営は小さくとも誇りを持ち若い人たち

【全国の農家長男今こそ立ち上がる】

私もそうでしたが、農家に長男が生まれると大変です。花火を上げたり、端午の節句には大きな鯉のぼりをあげ大切に育てられたものです。

また、弟たちは通えなかつた保育園・幼稚園にもあげられ、おじいちゃんおばあちゃんに帝王学まで仕込まれたのではないかでしようか。

そんな農家の長男は、人はいいんだがプレッシャーに弱く、農業へチャレンジせずサラリーマン人生を選んでいる人が大半を占めるのではないでしようか？（私がそうだったたでの勝手に書きました。失礼をお許し下さい）

今こそ全国の農家長男よ、立ち上がる。農業経営に挑戦し海外に負けぬ魅力ある農業を築こう。

今後もこの誌面をお借りしてエールを送ります。それは仲間としての私の生きざまです。

霧の旧布鎌村